

# 運動部活動等に対する社会的責任感に 関与する要因の地域差の検討

岡 田 猛

(1982年10月15日 受理)

Examination of Regional Difference on Factors Affecting  
a Sense of Social Responsibility Needful for  
Athletic Club Activity, etc

Takeshi OKADA

## Abstract

Today, it is said generally that a sense of social responsibility is on the decrease, while a sense of private responsibility is increasing. In this paper, how a sense of social responsibility in the light of role-taking in class room and club activity in school is stipulated by 48 explanatory factors is examined. Those 48 explanatory factors consist of factor-group with face-sheet, life-rhythm of child, life-habit of child, contact and perception between child and his mother, child's receiving of mother's discipline, child-mother relation, home-condition, and mother's discipline-effort.

281 pairs of first graders of secondary school and their mothers in Kagoshima city and 181 pairs in islands in Kagoshima prefecture are analysed with Hayasi's quantification theory II respectively.

As a result of analysis, are extracted many routine factors which show regional difference. Hence, in teaching a sense of social responsibility, different steps are needed in two regions.

Correlation ratios ( $\eta$ ) are 0.56, 0.31 and probabilities discriminating precision are 89%, 77%, in Kagoshima city and islands respectively.

## I. は じ め に

今日、児童や生徒の実態の把握が、各方面から試みられている。それというのも、彼らの実態が単に過去にくらべて大きな変化を示しているというにとどまらず、その変化が問題状況としてとらえられる内容を多分に含んでいるからである。校内暴力、家庭内暴力、非行、身体的異常、低学力、登校拒否などが今日大きな問題となっている。

ところで、筆者もその一所属である「鹿児島子ども研究センター」では、鹿児島県内の児童・生徒の実態を解明すべく、1980年6、7月、1981年2月の2回にわたり、鹿児島市、川辺町、野田・高尾野町、名瀬市、沖永良部の各地域にわたり、小学5年、中学1年、中学3年、の児童・生徒とその母親について、総計4,172組を対象に調査を実施した。それは「子どもの自立」の問題を軸と

し、それを「基本的な生活習慣」と「しつけ」、「親子関係」とのかかわりにとらえようとするものである。

調査結果の全般的な内容については、既にまとめられた報告書<sup>5)</sup>にゆずるとして、ここでは調査内容の一部である「社会的責任感」に焦点を絞り、そのありようがいかなる要因によって規定されているか、それが鹿児島市内と離島の間にもちがいがああるかを、中学1年生を対象にして解明していきたい。

ところで、一般に責任感といわれるものが、今日の児童・生徒の前述した問題状況にいかにかかわっているかについては、種々の調査が行なわれている。ここでは、その一例を山形県教育センターがまとめた「中・高校生の問題行動に関する研究」報告書<sup>9)</sup>にみてることにする。

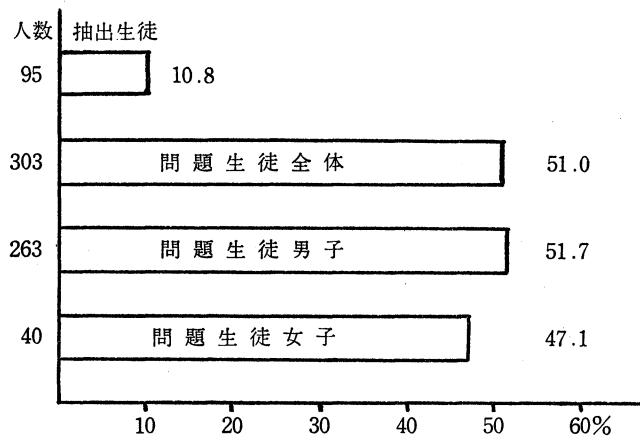


図1 責任感に乏しい者の割合 (山形県教育センター)

図1は、昭和54年度に、万引き、窃盗・強盗などの反社会的行動、薬物乱用、家出・無断外泊、登校拒否などの非社会的行動、不純異性交遊、わいせつ行為などの性に関する行動をひきおこした、中学の問題行動生徒の責任感をみたものである。

責任感に乏しい者の割合は、一般抽出生徒の10.8%に対して、問題行動生徒は、全体で51.0%と、4.7倍のちがいがああり、その間には、危険率1%で有意な差が認められる。

さらに表1は、主要な問題行動と責任感の関係を示したものである。責任感に乏しいことが、すべての問題行動に対して、なかんずく、家出、無断外泊、金銭強要に対して関係が深いことが察せ

表1. 主要な問題行動と行動・性格上の問題との関係 (山形県教育センター)

問題行動 性格上の問題	万引き	窃盗 強盗	飲酒 喫煙	家出 無断外泊	暴力行為	金銭強要
自主性に欠ける	47.3%	46.7	42.7	51.2	36.4	55.0
自己顕示欲強い	29.1	28.3	45.5	56.1	54.5	70.0
責任感乏しい	48.6	50.7	48.2	65.9	54.5	65.0
衝動性強い	34.5	34.9	40.0	58.5	59.1	75.0
情緒不安定	35.1	36.8	40.0	63.4	36.4	65.0

られよう。

このように、責任感は、生徒の問題行動の背景を知るうえで重要な要因であるといえよう。

ところで、筆者は既に、鹿児島市内と川辺町の中学1年生については、社会的責任感を規定する要因について分析を行い、そこで幾つかの点を析出した。

社会的責任感の程度を規定する要因として、母親の年齢、居住地、親のしつけの子のうけとめ一遂行努力一、テレビの視聴時間、登校前の時間的余裕などの要因があげられ、また、下校から夕食の間の活動としての友人との遊びで、それが家であるのか、外で行なわれるかで社会的責任感のあり様が異なっていた。

今回は、社会的責任に対する積極群と態度未表明群の弁別に寄与する諸要因のウェイトを求め、両群の特徴を多次的に分析し記述することを試みる。そしてこの手続きを鹿児島市と鹿児島県離島の二地域に別々に行ない、地域差を検討したい。

## II. 社会的志向性の概況

「滅私奉公から滅公奉私へ」というシェーマが論じられるように、意識や行動のあり方にとって現代は一つのエポックを印づけているかもしれない。

幾つかの調査によって状況を点描してみよう。

個人の幸福と日本全体との関係について、「個人が幸福になって、はじめて日本全体がよくなる」とする個人優先型が38.7%、「日本がよくなって、はじめて個人が幸福になる」とする社会優先型21.1%、「日本がよくなることも、個人が幸福になることも同じである」とする並列型33.6%とならび、青少年における個人志向性をわずかに示している<sup>6)</sup>。

別の調査<sup>2)</sup>によると、「自分の生活よりも、まず社会のことを考える」社会志向型は全体の10%と少ない。それに対して、「社会のことを考える前に、まず自分の生活をたいせつにする」私生活志向型は78%と高い。後者はさらに、「家庭では、一人一人が自分の好きなことをして過ごすよりも、家庭の団らんをたいせつにしたい」とする家族志向型・マイホーム型(50%)と、「家庭生活では、家族の団らんだけでなく、一人一人が自分の時間をもつことをたいせつにしたい」個人志向型(28%)に分かれる。

また、「現代青年のきままさを好む傾向や、趣味的なサークル活動を好む傾向は明らか」であり、「青年の忠誠の対象は、個人的な楽しみや趣味的な余暇活動に集中」し「現実の青年の意識の中には、身近な生活に重心がかかり過ぎ、社会＝公と積極的につながりを保っていかうとする、他者への献身の積極的意識は乏しい」という報告<sup>10)</sup>もある。

以上のような傾向は、米、独に比して日本において高く、「わが国青年の公共についての無関心ないし無責任さと、不満の高さ」が指摘されている<sup>7)</sup>。

ところでわれわれの調査では、責任感について、「あなたは、学級の係やクラブ(部活動)のしごとをひきうけたときにせいっぱいがんばりますか。」という質問で社会的責任感を、「あなたは、

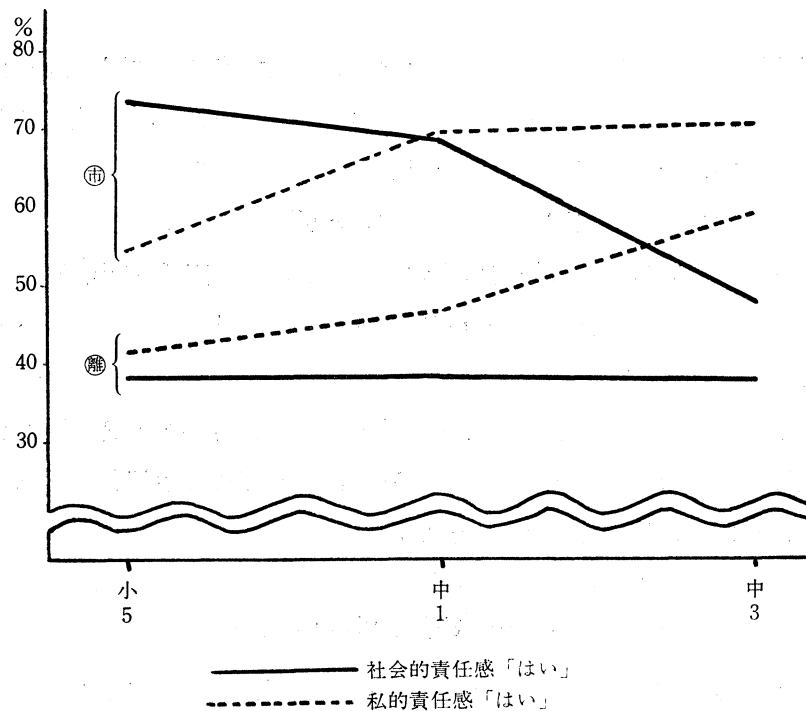


図2 責任感に対する回答

友だちと約束したことは、きちんとまもりますか。」という質問で私的責任感を明るみに出した。図2は今回の調査データよりみた回答状況である。

程度の差はあれ、両地域で私的責任感が学年とともに増加しているのに対し、社会的責任感、市内で、中3.で急激な低下、離島で横ばいの状態であり、前述の諸調査結果を、特に市内において、傾向として裏づけている。

### III. 社会的責任感について

次に社会的責任の概念について一瞥しておきたい。

人間は社会的存在であるといわれるように、われわれはほとんどあらゆる場面で人間関係を通して、あるいは集団の一員として生活している。その場合、活動を積み重ねるにつれて相互の間で、また集団において地位 (position) が出現・分化し、それがさらに安定していくにつれて、人間関係や集団が維持されていくことになる。

ところで、社会的地位とは、それがいかなる人によって占められようと、その占取者に対しては一定の活動が要請されているものであり、それは地位の占取者にとって義務としての様相をおびてくる。このような、ある地位に固有の活動的側面をわれわれは役割 (role) と呼んでいる。リントン<sup>11)</sup>はそれゆえに、役割とは、特定の地位に結びついた文化型 (行動様式) の総体で、そこにはある地位を占めているすべての人に対して、社会が課する態度、価値、行動などを含んでいる、といっている。各自がその占める地位に要請される活動、つまり役割を果たさなければ、人間関係や

社会集団の存続は危うくなり、他の人々の不信をかうことになる。

このように考えてくると、社会的責任とは何よりも役割の遂行であり、人の占める地位にふさわしい行動を実行しうる能力のことであるといえよう。

さらに社会的責任にはもう一つの前提が必要になる。それは役割活動が自由なる意志に基づいて遂行されているということである。命令されたり、強制された役割活動では、それがたとえ履行されなくても、そのことについて真からの責任感を生じようもないのである。みずから自主的にひきうけた役割の遂行においてこそ責任感が生ずるのである。リントンのいう文化型もそこには一定の幅があるのであり、たとえ他律的に決められた役割においてさえ、その一定の幅の中からある行動を積極的に選択する場合には責任感が生ずるのである。

ところで、学校生活において、これまで述べてきたような意味での役割遂行としての責任感が試されるのは、生徒達が、自主的・主体的に活動する場を比較的に保障されている、生徒会活動、学級会活動、運動部活動、文化部活動、クラブ活動等からなる、特別教育活動においてであろう。社会的責任感を問うた前述の質問内容も、この意味で妥当であったといえるであろう。

大平<sup>3)</sup>によると、彼の責任意識の発達段階の中で、中学校期は「集団的課題解決への協力的責任意識の時期」と位置づけられている。

## IV. 方 法

### IV-1. 林の数量化理論第 II 類について

データ解析の方法としてこれまでよく用いられてきたのは、クロス分析、トリプル分析であった。しかし、それらの手法には、飽戸<sup>1)</sup>の指摘するように大きな限界があり、多変量解析が重要視されてきた。林を中心にして開発されてきた数量化理論<sup>2)</sup>は、一定のモデルを演算して事後的に数量を与えること、それまでの多変量解析では分析することのできなかつた質的変量をも量的変量と全く同様に同一の次元で扱えるようになったこと、等を大きな特徴としてもつものである。

数量化理論のうち、数量化理論第 II 類とは、多変量解析としての判別関数を、その扱えるデータを質的変数にまで拡大した解析方法である。

### IV-2. 分析の対象（外的基準と説明変数）

分析の対象は次のごとくである。

鹿児島市	{	市内新興住宅地の中学1年生とその母親	194 組
		市内商業地区の中学1年生とその母親	220 組
離 島	{	鹿児島県名瀬市の中学1年生とその母親	181 組
		鹿児島県沖永良部の中学1年生とその母親	294 組

鹿児島市では、他の調査地区よりも、とりあげた両地区が最も都市的特徴を示すように思われることと、離島とのデータ数とのバランスをとるために新興住宅地と商業地区にした。離島は今回調

表 2. 説明変数一覧表

要因	アイテム	カテゴリー
I	1. 子どもの性別	①男 ②女
	2. 母親の年齢	①30歳未満 ②31~35歳 ③36~40歳 ④41~45歳 ⑤46~50歳 ⑥51~55歳 ⑦56歳以上 ⑧いない
	3. 父親の学歴	①中学校卒業 ②高等学校卒業 ③短期大学卒業 ④大学・大学院卒業
	4. 出生順位	①長子 ②中間子 ③末子
	5. 生活水準	①上 ②中の上 ③中 ④中の下 ⑤下
II	6. 朝一人で起きる	①はい ②寝すごしたときは起こしてもらおう ③だれかに起こしてもらおう
	7. 朝の排便	①いつも ②ときどきしない ③きまっていない
	8. 起床から登校までの時間	①20分以下 ②20~40分 ③40~60分 ④1時間~1時間20分 ⑤1時間20分以上
	9. 一日にテレビを見る時間	①見ない ②1時間以下 ③2時間以下 ④3時間以下 ⑤3時間以上
	10. 家での勉強時間	①あまりしない ②1時間以下 ③2時間以下 ④3時間以下 ⑤3時間以上
	11. 布とんの仕末を自分で	①いつも ②ときどきしないことがある ③しない ④ベッドなのであまりすることがない
	12. 勉強の始め、終りの時刻をきめている	①きめている ②きめているがなかなかまもれない ③きめていない
	13. 部屋の掃除を自分で	①する ②ときどきする ③あまりしない ④お母さんなどがする
	14. 下校から夕食の間一家で勉強	①する ②しない
	15. " " " " " " " " " "	①する ②しない
	16. " " " " " " " " " "	①みる ②みない
	17. " " " " " " " " " "	①する ②しない
	18. " " " " " " " " " "	①する ②しない
19. " " " " " " " " " "	①する ②しない	
20. " " " " " " " " " "	①する ②しない	
21. " " " " " " " " " "	①する ②しない	
22. " " " " " " " " " "	①する ②しない	
23. " " " " " " " " " "	①する ②しない	
III	24. 親との会話—学校でのきごと	①話す ②話さない
	25. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない
	26. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない
	27. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない
	28. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない
	29. 父の仕事への知識	①よく知っている ②少し知っている ③ほとんど知らない
	24. 親との会話—学校でのきごと	①話す ②話さない
	25. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない
	26. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない
27. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない	
28. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない	
IV	24. 親との会話—学校でのきごと	①話す ②話さない
	25. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない
	26. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない
	27. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない
	28. " " " " " " " " " "	①話す ②話さない

Ⅰ	<p>しすの つるう けにどと 対もめ</p>	<p>30. 部屋の整理をするよう 31. 正直であるよう 32. 最後までやりとげよう 33. 時間にけじめをつけるよう</p>	<p>C35 C36 C38 C39</p>	<p>①よくいう ②ときどきいう ③ほとんどいいわない ①よくいう ②ときどきいう ③ほとんどいいわない ①よくいう ②ときどきいう ③ほとんどいいわない ①よくいう ②ときどきいう ③ほとんどいいわない</p>
Ⅱ	<p>親— 子— 関— 係—</p>	<p>34. 他の兄弟に比べてとくにしかる 35. 母親が口やかましい 36. 小遣いの使い方を干渉 37. おねだりを聞いてくれる</p>	<p>C43 C46 C52 C58</p>	<p>①はい ②どちらかといえばそうだ ③いいえ ①はい ②どちらかかといえばそうだ ③いいえ ①よくする ②ときにはする ③いいえ ①はい ②ときにはいうことをきいてくれる ③いいえ</p>
Ⅲ	<p>家 庭 条 件</p>	<p>38. 子どもの夕食の時刻をきめている 39. 夕食は家族そろって 40. 小遣いは一定金額</p>	<p>M7 M8 M9</p>	<p>①きめている ②きまっていない ①はい ②そろわないほうが多い ①きめている ②きめていない</p>
Ⅳ	<p>し っ け 努 力</p>	<p>41. 部屋の整理をするよう 42. うそをつかないよう 43. 最後までやりとげよう 44. 時間にけじめをつけるよう</p>	<p>M35 M36 M38 M39</p>	<p>①よくいう ②乱雑になっているときはいう ③いいわない ①よくいう ②問題があったときにはいう ③いいわない ①機会あるごとに ②途中で投げだすようなときに ③とくにいいわない ①自分で守らせる ②親がきめて守らせる ③けじめがないとき注意 ④とくにいいわない ⑤自由にさせる</p>
Ⅴ	<p>親— 子— 関— 係—</p>	<p>45. とくにこの子どもをしかる 46. 子どものすることに口出しをする 47. 小遣いの使い方に口を出す 48. おねだられると負ける</p>	<p>M43 M46 M52 M58</p>	<p>①はい ②どちらかといえばそうだ ③いいえ ①はい ②どちらかかといえばそうだ ③いいえ ①はい ②ときにはきくことがある ③いいえ ①はい ②どちらかかといえばそうだ ③いいえ</p>

C: 子どもの回答 M: 親 (母) の回答 F: フェイス・シート

